



Annual Report 2019

認定 NPO 法人 FaSoLabo 京都

もくじ

事業・活動

1 社会的理解 … 3 P

食物アレルギー相談援助研究会
アウトリーチ
ファンドレイジング
つどいの広場
SNS・HP
講師・講演
調査・研究・政策提言

2 当事者支援 … 1 5 P

食物アレルギーサポートデスク
ニュースレター

3 支援者支援 … 2 1 P

出張アレルギーの学び舎
アレルギー大学

組織 … 2 6 P

基盤強化
FaSoLabo 京都の活動理念
組織 2019
組織 2020

中長期計画 … 3 0 P

2019 年度財務諸表 … 3 4 P



理事長 ごあいさつ

いつも、私たち FaSoLabo 京都の活動を支えてくださりまして、ありがとうございます。

2019 年度の事業報告をお届けします。

本法人は、2005 年 4 月に任意団体としてスタートして以来、多くの方々に支えられながら、食物アレルギーの子どもと保護者や家族を支える活動に取り組んで来ました。2014 年度からは、「地域子育て支援拠点事業」による「常設の居場所」として、地域の子育て世帯を支える活動を重ねてきました。2017 年度には、事業内容の一層の充実を図って、法人名称を「アレルギーネットワーク京都びいちゃんねっと」から「FaSoLabo 京都」に変更しました。いつも支えてくださっている皆さんの思いを大切にしながら、これからも様々な事業に取り組んでいく所存です。昨年 9 月には、丸 2 日間にわたるスタッフ合宿を行いました。法人の責務や今後の事業の展望など、スタッフそれぞれの思いを共有しながら学び合い、熱く語り合いました。そして、私たちスタッフにとっても、この法人が大切な場所であることを確認した 2 日間でした。

これからも、食物アレルギーをもつ子どもと家族が安心して暮らせる環境づくり、そして一人ひとりの子どもが健やかに育つ、住みよい地域や社会づくりに向けて、皆さまと力を合わせて取り組んでいきたいと思ひます。

皆さまの一層のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

2020 年 4 月

認定 NPO 法人 FaSoLabo 京都

理事長

空閑 浩人

1 社会的理解

➡食物アレルギー相談援助研究会

アウトリーチ

ファンディング

つどいの広場

SNS・HP

講師・講演

調査・研究・政策提言

●食物アレルギー相談援助研究会の運営委員(五十音順)

楠 隆：滋賀県立小児保健医療センター

(委員長) 小児科主任部長兼診療局長

日本アレルギー学会指導医・専門医

京都大学医学部臨床教授

青山 三智子：京都府こども発達支援センター診療課長

日本アレルギー学会専門医

上 島 唯：京都第二赤十字病院医療ソーシャルワーカー

社会福祉士

上原 久輝：田辺中央病院小児科医員

日本アレルギー学会専門医

空閑 浩人：同志社大学社会学部教授、社会福祉士

笹畑 美佐子：滋賀県立小児保健医療センター看護師

小児アレルギーエディター

中村 有美：大阪市スクールソーシャルワーカー、社会福祉士

※2020年3月末時点の所属・役職をもとに作成しています。

●委員会での検討課題(委員会 6/29、2/15)

地域子育て支援拠点事業者へのアプローチ

入口支援と個別支援の両立

子育て支援者による自発的な学び

将来像へのロードマップ策定

共に考え・変えていく

支援対象者に明確に「当事者」が存在する当法人の場合は、その当事者も事業・活動の主体として「参加」できる機会を創出することが、とても大切です。地域社会を主体的に築く創造性のある当事者、医療関係者、社会福祉士等ソーシャルワークの専門家と一緒に、多様なステークホルダーが、地域社会を「共に」考え・変えていくことを課題として研究活動をしています。

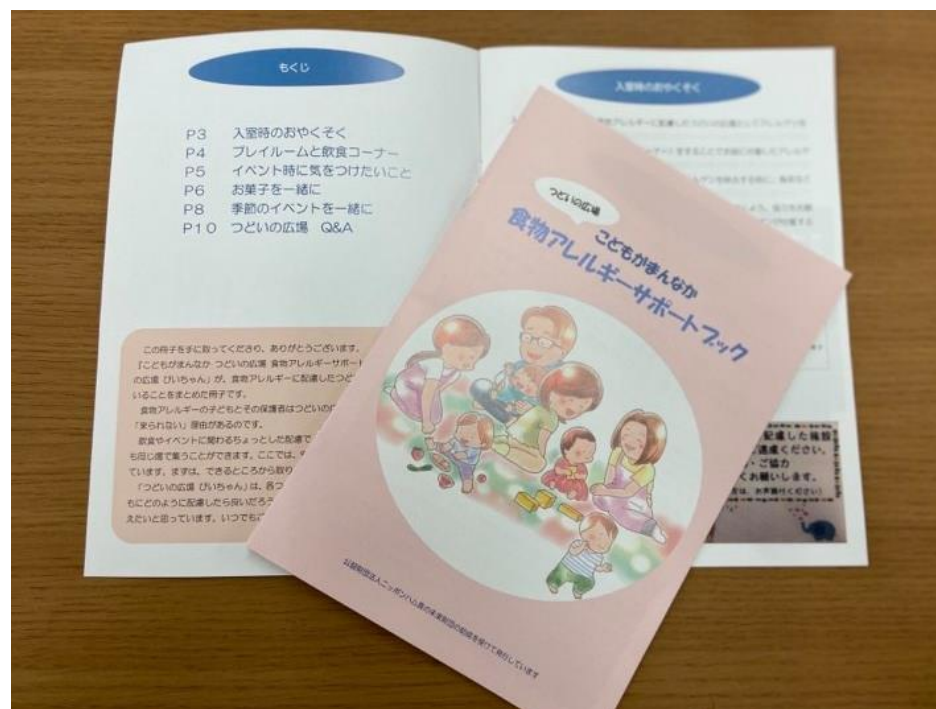
こどもがまんなか

～食物アレルギーサポートブック～

地域子育て支援拠点事業(つどいの広場)等、子育て支援の現場で、食物アレルギーに配慮した運営のヒントにしようことを目的に、日ごろ当法人が実践していることをまとめた冊子を作成しました。

相談援助研究会公開講座での配布や、研修会のテキストとしても利用しました。

公益財団法人ニッポンハム食の未来財団の助成を受け、京都府全域の子育て支援施設、全国約7000か所のつどいの広場に届けることができました。



1 社会的理解

公開講座～食物アレルギーの子どもを受け入れる環境をつくろう！～

9/7（土）9：00～12：15

会場：同志社大学 受講 29名

食物アレルギーの子どもを受け入れる環境を整えることを目的に、地域子育て支援拠点事業者等、子どもに接する方を対象として実施しました。

①こどもの食物アレルギーについて

講師：楠 隆先生（日本アレルギー学会指導医・専門医）

子どもの食物アレルギーについての基礎知識・緊急時の対応・緊急時自己注射（エピペン®）の使い方。

②相談援助（ソーシャルワーク）について

講師：空閑 浩人先生（社会福祉士）

食物アレルギーの社会的背景について、個人の問題としてではなく、環境との相互作用として捉える。

子育て支援施設職員の参加が多く、子育て支援施設での食物アレルギーの正しい知識の普及や相談援助の取り組みの必要性を感じる機会となりました。



こどものアトピー性皮膚炎・スキンケア（講座・実習）

2/2（日）9：30～12：15

会場：京都市国際交流会館第1会議室 受講 9名

講座：松本 哲宜先生（まつもとクリニック院長）

実習：笹畑 美佐子先生（小児アレルギーエドゥケーター、看護師）

乳幼児健診等で、乳幼児の保護者が指導されているスキンケアについて学ぶ機会のない子育て支援者に、支援者の立場でスキンケアについて知ってもらうことを目的に実施しました。

講座で、アトピー性皮膚炎・食物アレルギーとの関係・スキンケアについて学んだ後、スキンケア実習（せっけんの泡立て方・洗い方・外用薬使用方法）を行いました。

学びを、現場に活かしてもらうことが大切だと感じています。



事例検討会（ケースワーク）

（当初予定）3/14（日）13：30～17：00

会場：京都市国際交流会館

※COVID-19（新型コロナウイルス）の流行により延期

実際の相談事例について検討を行う相談事例検討会を企画しました。

食物アレルギー相談援助研究会の委員会（P3）にて、発表・事例検討を行う事例を選出しましたが、新型コロナウイルス感染症の流行により延期しました。2020年度中の開催を予定しています。

1 社会的理解

食物アレルギー相談援助研究会

➔アウトリーチ

ファンドレイジング

つどいの広場

SNS・HP

講師・講演

調査・研究・政策提言

活動報告と新たな繋がりを目指す場

社会に広く、食物アレルギーの子どもや保護者の生活について知ってもらうこと

FaSoLabo 京都の活動について多くの人に関心を持ってもらうことを目的に年に一回、私たちの活動拠点を開放しています。地域を越えた新たな出会いが生まれています。

オープンキャンパス

5/27(日) 11:00~14:00

会場: FaSoLabo 京都 サポートデスク

参加 26組 38名

オープンキャンパスでは、年間活動報告・お楽しみ企画を1日で行います。

活動報告は、スタッフからの報告だけでなく、協働団体の方や協力してくださった会員やボランティアにも発言してもらい、「共に」活動していくことを意識しています。

お楽しみ企画は、食物アレルギーの有無に関わらず、みんなが一緒に楽しめることを意識しています。



はなはなぶーさんマジックショー

大人も子どもも、みんなと一緒に笑いあえる大人気のマジックショー。お楽しみ企画の始まりにあたたかい雰囲気を作ってくれます。



アレルギー対応のランチプレート

ちょっとした工夫で食物アレルギーの有無に関わらずみんな一緒にの食事を楽しくることを広く知ってもらう場にもなっています。



アレルギー対応のチョコレートファウンテン

チョコレートファウンテンは、特別感のあるデザートで、「あこがれ」だと話す食物アレルギーの子どもや保護者もいます。「みんなと一緒に楽しい場に参加できた」という経験が、子ども達の自信にもつながります。



キッズチャレンジ お菓子屋さん&景品付きゲーム屋さん

子どもスタッフ（P18 参照）が、自分たちで選んだアレルギー対応のお菓子を販売したり、自分たちで準備したゲームコーナーを運営します。食物アレルギーの有無に関わらず、一緒に活動しています。

この経験を通して、自分のアレルギーについて友達に伝える姿、不安なことを自分の言葉で保護者以外の大人に確認する姿、アレルギー対応のお菓子のおいさをアピールする姿など、保護者も初めて見るような頼もしい子ども達を見ることが出来ます。



1 社会的理解

異業種・他分野と新たな繋がりを目指す場

食物アレルギーを異業種・他分野からのアプローチで、普段は情報が届かない人たちにも食物アレルギーや家族の生活、支援活動について知ってもらうことを目的として2019年度よりスタートした新たな取り組みです。

サルベージ・パーティ®

2/15 (土) 10:30~13:30

会場：ゴマクロサロン2階 参加 7組11名

協働事業者：ゴマクロサロン 京都烏丸御池

講師：佐井 かよ子先生（栄養士）、
伴 亜紀先生（栄養士、株式会社Graine 代表）

サルベージ・パーティ®とはフードロスを失くすために、“もてあましている食材”を持ち寄り、みんなでおいしく変身させ、食材を救い出す活動です。

食物アレルギー配慮商品は、使い慣れず廃棄してしまうという声が聞かれていました。参加者が持ち寄った特定原材料7品目を使用しない食材で、講師の先生が14品もの料理を作ってくださいました。フードロスの視点で参加された方との交流も図れ、相互の生活や思いを楽しく、美味しく共有する機会となりました。



1 社会的理解

食物アレルギー相談援助研究会

アウトリーチ

➔ ファンドレイジング

つどいの広場

SNS・HP

講師・講演

調査・研究・政策提言

寄付活動を通して、社会に伝える

ファンドレイジングは単に活動資金調達だけでなく、寄付を募る過程で、社会の課題を示し、理解と共感をいただき、社会課題の解決にむけ支援者を増やしていくために必要な活動です。2019年度も企業の社会貢献活動とマッチングし、活動資金調達の枠を超え、食物アレルギーやその子どもと家族の生活や思いの周知に視点を置いた寄付活動を行いました。



イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン

イオン京都五条店 寄付 23,200 円

イオン五条店に、地域団体として登録しています。毎月11日のキャンペーンでは、会員の方と一緒に買い物客にレシート投函を呼びかける店頭 PR 活動を行っています。2019年度は3回行いました。



H2O サンタ NPO フェスティバル

8/28~30 阪急うめだ本店 9階祝祭広場 寄付 12,397 円

H2O リテイリンググループのイベントに参加しました。ブースやステージで団体の活動について来場者に説明をしたり、食物アレルギーに配慮したハロウィンを周知する『ブルーパンプキン』を毛糸で作るワークショップを行いました。

1 社会的理解

食物アレルギー相談援助研究会
アウトリーチ
ファンドレイジング

つどいの広場

SNS・HP
講師・講演
調査・研究・政策提言

地域社会との接点

利用者 延 851 組 1,959 名

地域の子育て世帯と食物アレルギーの子育て世帯の接点として、週 5 日、食物アレルギーに配慮して開所・運営しています。

中京区子育て支援ネットワークにも参画しており、地域全体の子育て支援機関に活動を知ってもらうことにより、食物アレルギーについて相談できるつどいの広場として周知されてきています。

はじめてセット

入室時の説明、利用の仕方などをわかりやすくまとめ、セットにし、初利用者に配布を始めました。

- ・施設利用の手引き「ようこそ♥つどいの広場ぴいちゃん」
- ・つどいの広場カレンダー
- ・ぴいちゃんホットニュースレター
- ・FaSoLabo 京都リーフレット
- ・冊子「あのねきいて」

の 5 種類をセットにしています。

11 月より配布をスタートし、利用者の定着と食物アレルギーへの理解につながりました。

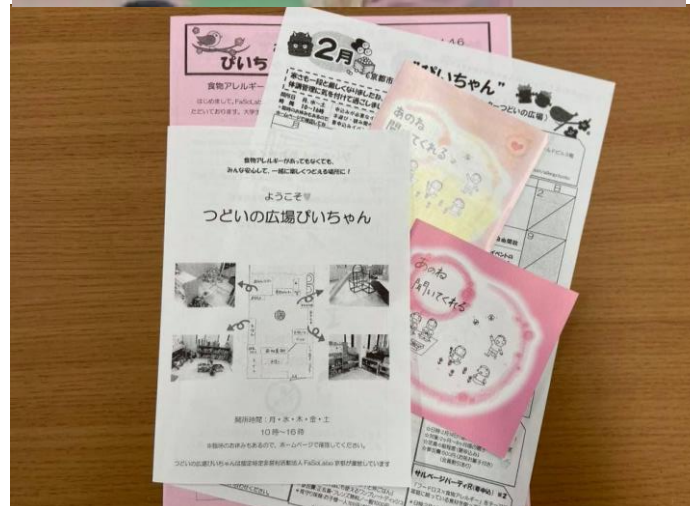


▲ハグモミ4回 12組 24名

▼ベビヨーガセラピー10回 38組 76名



▼手袋シアター 12回 21組 42名





食物アレルギーミニ講座 年3回

参加 延 12組 24名

①②食物アレルギーってなあに？

4/15(月)、6/17(木) 10:30~11:30

講師：小谷 智恵(社会福祉士)

③乳幼児のスキンケア

12/2(月) 13:30~14:30

講師：笹畑 美佐子先生(小児アレルギーエディケーター、看護師)

赤ちゃん連れで気軽に参加できる講座にし、安心した子育てへの一助になりました。

ベビーハロウィン 乳幼児親子対象

10/28(月) 10:30~11:30 参加 5組 13名

ハロウィンに食物アレルギーの子どもにはお菓子のかわりにおもちゃ等を配る「ブルーパンキン」の取り組みを紹介しました。

食物アレルギーを身近に知る機会として、毎年、実施しています。

ハンドベルクラブ 毎月2回(木曜日)

保護者が、赤ちゃん連れで参加でき、お互いの子どもを見守りながら楽しくリフレッシュできる機会になっています。

出張つどいの広場

毎月2回(木曜日) 全19回/中京区社会福祉協議会

利用者 延 131組 266人

広々とした開放的な空間が人気です。



1 社会的理解

食物アレルギー相談援助研究会
アウトリーチ
ファンディング
つどいの広場

→ SNS・HP

講師・講演
調査・研究・政策提言

SNS を活用した情報発信へ

イベントの告知や報告、食物アレルギーの支援活動をする個人や団体の繋がり、情報発信、情報共有を目的としています。

ホームページ

<http://www.allergy-k.org/>

法人概要（理事会・沿革・毎年の事業報告など）や、全ての事業・活動をご覧いただけます。

Facebook

サポートデスク

<https://www.facebook.com/allergy.kyoto>

食物アレルギー相談援助研究会

<https://www.facebook.com/食物アレルギー相談援助研究会>

つどいの広場

<https://www.facebook.com/つどいの広場>

日頃の様子や実施したイベントの報告などをご覧いただけます。

LINE

ふあそば京都

ふあそばフレンズ（会員専用）

- ・ニュースレター
- ・イベントカレンダー

案内をいち早くお知らせしています。イベント参加者には当日の様子を収めた写真をお送りしています。

会員専用 LINE もあり、イベントの早期案内、予約が可能になりました。



1 社会的理解

食物アレルギー相談援助研究会
アウトリーチ
ファンドレイジング
つどいの広場
SNS・HP

→ 講師・講演

調査・研究・政策提言

生活モデルの支援の必要性

理事の小谷智恵が、2019年3月に社会福祉士の資格を取得したことから、これまでの「相談援助」「子育て支援」の内容に加え、法的根拠などを関連付けたお話をさせていただきました。

また、「子どもの夢」企画の発表、2016～2019年度に取り組んだ組織基盤強化の取り組みや調査・研究事業についての講演、自治体の各委員会の委員や、イベントでの相談コーナーも務めました。

講師・講演

- 6/5 パナソニックサポートファンド 組織基盤強化ワークショップ IN 京都
「設立当初の目標『常設の居場所』の獲得から、
これからの組織体制・事業の再構築」
- 9/24 守口市立八雲小学校
「食育と食物アレルギー・調理実習」
- 10/2 京都府南丹保健所
南丹管内子育て支援者のためのステップアップ講座
「乳幼児の食物アレルギーとその相談支援～子育て支援の視点から～」
- 10/30 みんなのアレルギー-EXPO2019
アレルギーっ子の未来は明るい ゲストスピーカー
- 11/5 同志社大学 社会学部社会福祉学科
社会福祉基礎講座 当法人活動紹介
- 1/10 令和2年度 WAM 助成募集説明会 活動報告
事業計画立案時のポイント紹介
- 2/13 兵庫アレルギー研究会 ゲストスピーカー
「食物アレルギーと相談援助」

出展等

- 6/28 深草地域子育て支援ステーション
第36回ふれあいランド 食物アレルギー相談コーナー
- 7/1 中京区子育て支援センター
おいでよびよらんど 赤ちゃんコーナー
- 11/22 深草地域子育て支援ステーション
第37回ふれあいランド 食物アレルギー相談コーナー

委員会等

- 2/7 京都府子育て支援認証団体意見交換会
- 4/13・5/11・6/8・12/14・2/8
中京区子育て支援ネットワーク会議

▼同志社大学社会学部社会福祉学科授業にて 活動紹介の様子（11/5）



1 社会的理解

食物アレルギー相談援助研究会
オープンキャンパス
つどいの広場
フاندレイジング
SNS.HP
講師・講演
➔調査・研究・政策提言

地域課題から社会課題へ

2016~2018 年にかけて子育て支援の場での食物アレルギーの対応状況を客観的数値で示したことから、地域（京都府）課題が、社会課題へと広がる機会となりました。

京都府総合計画案への提案

食物アレルギーの拠点病院や協議会の早期設置を提案したことから、追加案件とされたことについて、担当課から報告を受けました。

京都府知事
西脇 隆俊 様

認定特定非営利活動法人 FaSoLabo 京都
(旧名称: アレルギーネットワーク京都(いっちゃんねっと))
京都府中京区西宮西園町 542 キンフォードビル 3 階

京都府における食物アレルギーの子どもと保護者の支援体制への提案

提案項目

- アレルギー疾患対策基本法における「拠点病院」の早期設置及び、アレルギー児・者への生活の質の向上のための相談体制(福祉との連携)の整備をお願いいたします。
- 地域子育て支援拠点事業(つどいの広場)での、食物アレルギーへの受け入れ体制の整備をお願いいたします。

西宮駅におかれましては、取組以前より府内各地を回られ、かつてご縁があったことが、少子高齢化・人口減少社会に対して、多くの府民が不安を持っていることを実感されていることと思います。

パブリックコメント(要旨)	意見に対する京都府の考え
京都市内を含めた京都府内のほぼ全ての地域子育て支援拠点事業(つどいの広場)ではアレルギー対応がされておらず、食物アレルギーの子どもや保護者には、利用しにくい施設となっている。京都府が実施しているつどいの広場の職員向け研修「子育て支援員と子育ての達人講座」でも、食物アレルギーの内容が含まれていないので、加えてほしい。	地域子育て支援拠点事業については、市町村が現存者に対して専門的な知識・技術に関する業務的な研修を実施するものですが、ご意見を踏まえ、アレルギーも含めた専門的な知識・技術に関する研修の実施について、京都府も引き続き支援してまいります。
教育現場でのアレルギーへの対応については私立・公立問わず、一貫した指導や研修を行うしてほしい。	公立・私立幼稚園等及び小学校に対しては、「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン(日本学校保健会)」等を踏まえ、通知を行うとともに、「学校等における食物アレルギー対応の円滑化(京都府教育委員会)」を送達するなど、適切な対応について依頼してまいります。
アレルギー疾患対策基本法における「拠点病院」を早期設置するとともに、アレルギー児・者への生活の質の向上のための相談体制(福祉との連携)を整備してほしい。	御提案を踏まえ、分野別基本施策③安心できる健康・医療と人生100年時代の具体策29の後半に「アレルギー疾患についても、医療従事者や相談体制の整備を進めます」を追加し、治療拠点病院の設置等医療支援体制や相談体制の整備を進めてまいります。

認定NPO法人 FaSoLabo 京都
食物アレルギー児への子育て支援事業

【事業概要】
認定NPO法人としての認定を受け、認定NPO法人の特典(法人格)を享受し、活動の透明性を高め、社会からの信頼を得ることを目指しています。

【事業内容】
●食物アレルギー児への子育て支援事業(つどいの広場)の運営
●アレルギー相談センターの運営
●アレルギー児への生活の質の向上を図るための活動

チャレンジ
食物アレルギーへの理解を広め、子どもと保護者のQOLの向上を目指す

食物アレルギーの子どもの生活の質を向上させることは、保護者にとっても大きな課題です。この課題を克服し、子どもと保護者のQOL(生活の質)を向上させることが、私たちの目指すところです。

(独)福祉医療機構
月刊誌2月号に掲載
食物アレルギーの「子育て支援」「生活モデル」の取り組みが掲載されました。



(独)福祉医療機構
事業評価報告書に掲載
2018年度の調査から法的根拠に基づく分析・報告を行ったことで、「特にすぐれた事例」として機構・厚生省のヒアリングを受けることとなり、その評価報告書に掲載いただきました。

食物アレルギー児への子育て支援事業
認定特定非営利活動法人 FaSoLabo 京都

(1) 団体概要
●設立: 平成17年4月
●活動内容: 食物アレルギー児への子育て支援事業(つどいの広場)の運営、アレルギー相談センターの運営、アレルギー児への生活の質の向上を図るための活動

(2) 活動の経緯
●活動の経緯: 平成17年4月に設立された。当初は食物アレルギー児への子育て支援事業(つどいの広場)の運営を中心とした活動であったが、アレルギー児への生活の質の向上を図るための活動も行うようになった。

(3) 事業概要
●事業概要: 食物アレルギー児への子育て支援事業(つどいの広場)の運営、アレルギー相談センターの運営、アレルギー児への生活の質の向上を図るための活動

(4) 取り組んだ課題
●取り組んだ課題: 食物アレルギー児への生活の質の向上を図るための活動、アレルギー相談センターの運営

(5) 事業内容
●事業内容: 食物アレルギー児への子育て支援事業(つどいの広場)の運営、アレルギー相談センターの運営、アレルギー児への生活の質の向上を図るための活動

(6) 事業実績(アウトプット)
●事業実績: 平成17年度から平成18年度までの実績

(7) 事業の結果(アウトカム・インパクト)
●事業の結果: 食物アレルギー児への生活の質の向上を図るための活動、アレルギー相談センターの運営

(8) 取り組みの工夫(事業実施体制・プロセス)
●取り組みの工夫: 食物アレルギー児への生活の質の向上を図るための活動、アレルギー相談センターの運営

(9) 評価面より
●評価面より: 食物アレルギー児への生活の質の向上を図るための活動、アレルギー相談センターの運営

(10) 取組内容
●取組内容: 食物アレルギー児への生活の質の向上を図るための活動、アレルギー相談センターの運営

(11) 今後の展開(期待事項等)
●今後の展開: 食物アレルギー児への生活の質の向上を図るための活動、アレルギー相談センターの運営

**社会福祉医療機構事業
事業評価報告書**

2 当事者支援

➔食物アレルギーサポートデスク

ニュースレター

ほっとできる、いつでも集える居場所

食物アレルギーの子どもとその保護者の常設の居場所として、任意団体スタート時点からの夢であった「サポートデスク」(2013.5～)は、食物アレルギーの子どもや保護者のセーフティネットとして、食物アレルギーについて相談できる場所、ほっとできる場所でありたいと願って運営しています。



Ban! ばん! バーン! と伴ごはん 保護者対象

6/8 (土)、9/28 (土)、11/9 (土)、2/22 (土) 10:30~12:30 参加 延41名

講師：伴 亜紀先生 (㈱Graine 代表)

参加者は調理をしない、レシピ紹介と保護者同士の交流が目的の講座です。新しいレシピを知りたいけれど、書いてあるものを見ただけでは、コツや手間が分かりにくく、作るのに躊躇してしまう。アレルギー対応での家族の毎日の食事作りに頑張る保護者の皆さんにとって、サポートデスクはのんびりできる場所になって欲しい。そんな二つの思いを叶える、参加者は交流しながら、見て触って食べるだけの講座として、人気のシリーズです。

2 当事者支援



ばーばのおやつ 親子対象

①『ぼたもち』

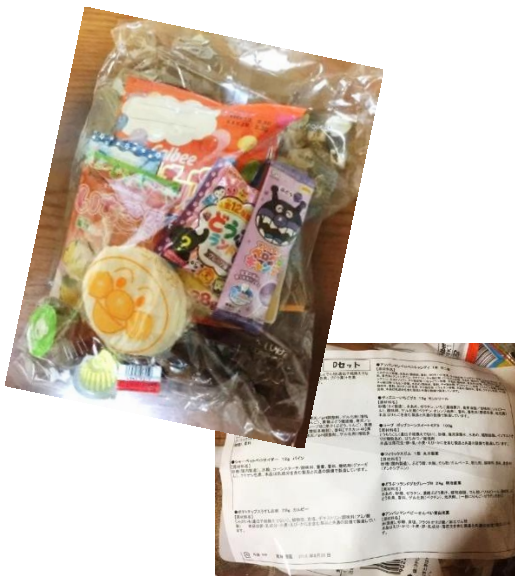
4/20(土) 10:30~12:30 参加 3組7名

②『いちご大福』

1/25(土) 10:30~12:30 参加 4組12名

講師：高畑 直美先生(ばーばの手)

京田辺市の地域コミュニティ「ばーばの手」さんによる、伝統おやつ作り講座です。祖母から孫世代までと一緒に調理・試食・交流できたイベントとなりました。2020年度も実施する計画をしています。



地藏盆 親子対象

8/8(木) 11:00~16:00 参加 4組10名

協力：田辺 尊史氏(西念寺住職)

毎夏の恒例行事「びいちゃんの地藏盆」。お菓子やお昼ご飯がふるまわれる地域の地藏盆には参加しづらい食物アレルギーの子ども達が、食物アレルギーの有無に関わらずみんな一緒に楽しめるようにと始めた取り組みです。ゲームやおやつ、お昼ご飯、西念寺(木津川市)のご住職に教えてもらいながら参加者全員で楽しむ本格的な大数珠回しで、終日、楽しむことができました。

2019年度の『袋いっぱいのお菓子』は、はじめて「市販の食物アレルギー対応お菓子セット」を利用することができました。「ばーばの手」代表、当法人、フレンズ会員、地域の支援者が、それぞれの地域から要望をしたことで、京都生活協同組合でアレルギー対応の地藏盆お菓子セットの販売が実現したからです。本来は自分たちの住む地域で参加したい地域行事であり、その地域行事に対して企業や地域での食物アレルギーへの理解が広まってきていることから、当法人で実施する地藏盆としては一定の役割を果たしたとして、2019年度で最終とさせていただくことになりました。2020年度からは食物アレルギーに配慮した地藏盆が、さらに多くの地域で実施・定着するように、形を変えて応援していきたいと思っています。



クリスマスパーティー 親子対象

12/21 (土) 13:30~16:00 参加 9組22名
 毎年の人気イベント「アレルギーフリーのクリスマスパーティー」です。工作やゲームを楽しんだ後は、参加者全員でアレルギー対応のクリスマスケーキを食べます。初めてケーキを食べる子どももあり、みんなで同じケーキを嬉しそうに食べている姿が印象的でした。

2020年度も実施する計画をしています。



食物アレルギー相談窓口

〇月・水～土

食物アレルギーに関する相談をお受けしています。

入園入学や宿泊行事（お泊り保育・修学旅行など）の相談は、とても多く、集団生活での不安が大きいことが見て取れます。

相談は、社会福祉士で京都府教育委員会の『学校等における食物アレルギーの手引き』策定委員でもある、当法人の理事が担当しました。

〇アレルギー相談日

ゆっくり個人的に相談をされたい方向けに、毎月1回「アレルギー相談日」を設け、来所での相談を受けています。

共同購入

一般の商品よりも割高なアレルギー対応食品、送料の負担を少しでも軽減できるようにと2カ月に一度の共同購入を行いました。2019年3月をもって終了し、株式会社イーデライツさんの新事業開始により引継を行いました。



▲株式会社イーデライツ
ECサイト

2 当事者支援

➡食物アレルギーサポートデスク

ニュースレター

キッズチャレンジ

子どもが真ん中、子どもの可能性

食物アレルギーの有無に関わらず楽しくて、食物アレルギーがあっても諦めなくて良い。そんな機会を創りたくて「キッズチャレンジ」と名付けて4つのイベントを行いました。

主役は子ども達です。子ども達の挑戦したいという気持ちを後押しし、保護者と離れて自分のことを「知ること」・「伝えること」自分以外の食物アレルギーの子どもと出会うことを目的としています。

子ども会議 年長以上対象

3/27(水)、3/30(土)、4/3(水)

10:00~12:00 参加 13名

5月に行われるオープンキャンパス(P8参照)のお楽しみ企画では、子ども達が主体となって行う『アレルギー対応の駄菓子屋さん』と『ゲームコーナー』があります。この日に向けて食物アレルギーの有無に関わらず、一緒になって準備をするのが、春休みに開催する子ども会議です。

- ・子ども達にチャレンジする機会を提供すること
 - ・保護者と離れて友達とアレルギーフリーのおやつを試食する機会を作ること
 - ・アレルギーフリーのお菓子を知り、それをオープンキャンパスに訪れた多くの人に知らせること
- などを目的に取り組んでいます。



たこ焼き屋さん 親子対象

7/31(水) 12:30~15:00 参加 7組 17名

白玉粉と米粉、片栗粉を使い、アレルギー対応の「たこ焼き」を作ります。

今年度は、京都華頂大学の学生さん3名にもたこ焼き作りをお手伝いいただきました。





こどもパティシエ 年長以上対象

『3色の米粉クリームのカレーパン』

8/7 (水) 13:00~15:00 参加 6名

講師：佐藤 真季先生 (こめこ舎)

講師には、卵・乳・小麦等の特定原材料 7 品目の他に参加する子ども全員が食べられる材料で、レシピを考案していただきました。

食物アレルギーがあっても諦めない、こんなことがやりたいな、こうなったらいいなど発想できる子どもたちになって欲しいという願いが込められた企画です。

防災お菓子ポシェット 年長以上対象

9/14 (土) 10:30~12:00 参加 6名

講師：西谷 真弓先生 ((一社)おいしい防災塾)

講師：松本 紀之先生 (防災士)

子どもたちに防災に関心を持ってもらうことを目的に実施しました。

〇×クイズ形式で、災害が起きた時の行動や備えについて学び、それを踏まえて災害時の非常食にもなるアレルギー対応の「お菓子ポシェット」を作りました。

出来上がったポシェットが賞味期限を迎えた時は、災害が起ころなかったことに感謝してお菓子を食べます。



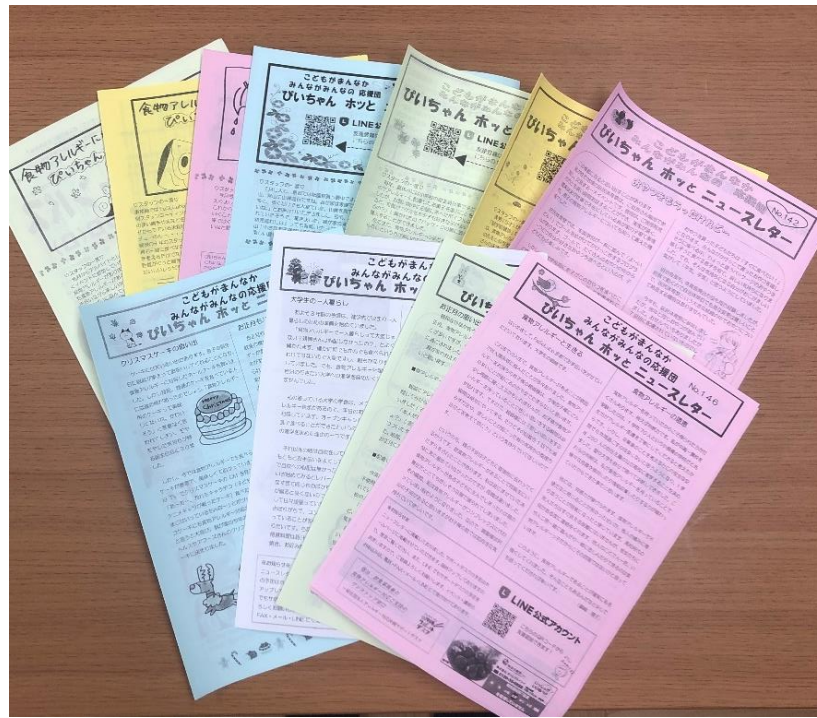
2 当事者支援

食物アレルギーサポートデスク

➔ ニュースレター

原点は「ひとりじゃないよ」

ニュースレターは、2005年から始まった FaSoLabo 京都の原点事業です。食物アレルギーの子どもの子育てでは周囲に仲間や理解者を見つけられず、孤独を感じることがあります。そんな人に「ひとりじゃないよ」を伝えるのがニュースレターです。食物アレルギーの子どもや保護者との最初の接点であり、大切なピアサポートへの入り口と位置付けています。そのため、より伝わる内容にするためにスタッフで話し合い、改善を重ねています。



2019 年度のニュースレターの工夫

■表紙のメッセージを充実

ニュースレターの表紙には『当事者のメッセージ』を一面に大きく載せる形式に変更しました。

『ひとりじゃないよ』というメッセージが、ニュースレターを読まれる方に人に伝わりやすいようにという思いが込められています。


2019 年度は

No.136～No.146 まで

11 号を発行しました。

会員、子育て支援施設、児童館、保健所等に

配布しています。



こどもがまんなか みんながみんなの応援団 No.1 4 6 びいちゃん ホット ニュースレター

食物アレルギーと生きる

はじめまして、FaSoLabo 京都でお手伝いをさせていただいております。大学生の幽崎です。

これまでの人生で、食物アレルギーがあることが原因で対人関係等に悩んだことが多々ありました。食物アレルギーをお持ちのお子様の親御様は、今後お子様にどんな辛いことが起こるのか不安でたまらないと思います。少し臆縮に聞こえるかもしれませんが、お子様が食物アレルギーを持っていることで悲しい思いをする瞬間は必ず訪れます。ですので、親御様には「悲しい思いをする瞬間は絶対にやめて来る。だけどその回数を1回でも減らす方法や、悲しいことが起こった時の気持ちの整理方法などを考えておこう」という気持ちでいてほしいです。

というのも、親の不安は子どもに直接的に伝わってくるからです。昔食物アレルギーがあることで同級生にいたずらされたことがあります。私は変にまかせていた為特に気に留めていなかったのですが、両親は違いました。食物アレルギーがある子どもに生んでしまったのは親の責任だととても悲しそうな顔で謝られてしまいました。その瞬間、私は食物アレルギーがコンプレックスに代わってしまい悩むようになりました。なので、親御様は沢山の不安があると思いますがお子様の前では前向きな気持ちでいて欲しいです。


食物アレルギーの恩恵


食物アレルギーを待っていたからこそ得られた力がたくさんあります。例えば判断力です。私が中高一貫校を受験したのは、1学年70人という小規模の学校だと先生方がアレルギー配慮を丁寧にしてくださると考えたからです。しかし、卒業後のことを考えるとこの安全な空間で6年間過ごすのは良くないと思うようになり、1学年250人の放任主義の公立高校に進学することを決めました。塾や大学も自分で調べて決めてきました。これらの判断は、私が食物アレルギーを持っていることで様々な危険を察知したり情報収集したりする力が備わっていたからできた事だと思っています。


他には、共感力が挙げられます。食物アレルギーで不便だと感じる事が多かったせいか、他人の痛みに寄り添うことが得意になったと感じています。高校時代の友人たちはすぐ会える距離にはいませんが、彼女たちに何かある度に連絡をくれます。他人のことで一喜、いや人二倍一緒に喜んだり一緒に悲しんだりできるのは食物アレルギーっ子だからその武器ではないかと思っています。

このように、食物アレルギーであることが確実に私を強くしてくれました。そんなこともあるんだなと少しでも思ってくだされれば幸いです。(幽崎 理了)

※お知らせ
ニュースレターに掲載しておりました、サポートデスクの予定はホームページに掲載させていただきます。随時アップしておりますので、是非ご覧ください。また、LINEでもサポートデスクの予定を伝えますので、ご登録よろしくお願ひします。イベント・講座のお申込みは、電話・FAX・メール・LINEにて受け付けております。

**LINE 公式アカウント**

こちらのQRコードから友達追加できます！



20

3 支援者支援

➡出張アレルギーの学び舎 アレルギー大学

京都府内に支援拠点を創る

2011年度に京都府内でスタートしたアレルギーの学び舎の目的は「保護者や子どもを受け入れる施設の方たちに、食物アレルギーを正しく知ってもらうこと」でした。

2012年度からは、「出張アレルギーの学び舎」として「保護者と支援者が共に学び、思いを共有する場」「地域の支援を地域で行える人材育成」

を目的として、京都府内の子育て支援団体等との協働で各地で開催してきました。

2019年度は、京都府子どもつながり応援隊事業補助金（★印）を財源として、福知山市・京田辺市・亀岡市・京都市西京区・長岡京市が行った講座・交流会等についての中間支援やサポートデスクでの次世代育成の事業として行いました。



Mana Hosokawa



★細川真奈さんおしゃべり会 IN 京都

講師：細川 真奈氏（アレルギーナビゲーター）

11/16（土）

会場：伊右衛門サロン アトリエ京都

食物アレルギーの当事者と家族 7組 8名

2/8（土）

会場：ゴマクロサロン2階

食物アレルギーの当事者と家族 13組 21名

全国各地で開催されていた「おしゃべり会」を実施しました。

次世代のサポートデスクスタッフがイベントの企画・運営ができるようになることを目的に開催しました。

食物アレルギーと共に過ごしてきた大学生スタッフが、当事者と支援者の両方の視点から、準備や当日の運営を積極的に行いました。

▲アレルギーナビゲーター細川真奈オフィシャルウェブサイト

<https://eatis.jp/>

3 支援者支援

★京田辺市

協働団体：ばーばの手

『お芋ほり』

10/26(土) 親子対象 参加 大人19名 子ども21名

他地域・他団体の参加の機会を作り、それぞれが自分たちの地域に戻って、同様の取り組みができることを目的として開催しました。

地元の農園をお借りし、ばーばの手のスタッフに育ててもらったさつまいもを親子で収穫し、調理しました。当法人は参加者の受付窓口となり、当日の準備、片付けなどをサポートしました。特別なことをしなくても食物アレルギーに配慮した食事が用意できること、みんなで一緒に食べる楽しみを体験してもらいました。

野外で活動できる貴重なアレルギー対応のイベントとして来年度以降も開催する予定です。



★長岡京市

協働団体：食物アレルギー児の暮らしを考える会 長岡京

『食物アレルギー講演会・交流会』

11/30(土) 10:00~12:00 参加31名 託児6名

講師：土屋 邦彦先生（日本アレルギー学会専門医）

『自分の地域でも食物アレルギーについて交流できる場が欲しい』と思っていた当法人スタッフが団体を立ち上げ、当法人は食物アレルギー講演会の準備・運営をサポートしました。

また、特定非営利活動法人乙訓障害者事業協会（長岡京市）との結び付きをコーディネートし、地域資源の再資源化の役割も果たしました。



★福知山市

協働団体：NPO法人おひさまと風の子サロン（すくすくひろば）

『アレルギーのおはなし』

①乳幼児のスキンケア

11/19(火) 10:30~12:00 参加 親子23名

講師：笹畑 美佐子先生（看護師・小児アレルギーエドゥケーター）

②食物アレルギー勉強会

12/7(土) 10:30~12:00 参加 親子17名

講師：青山 三智子先生（日本アレルギー学会専門医）

※台風のため日程変更

③食物アレルギーと食育のお話

12/13(金) 10:30~12:00 参加 親子20名

講師：伴 亜紀先生（栄養士・㈱Graine 代表）

2019年度の取り組みは、これまで2年間の取り組みを一緒にした講座+交流という形で「アレルギーのおはなし」3回シリーズとして実施しました。



- ばーばの手（京田辺市）・食物アレルギー児の暮らしを考える会長岡京（長岡京市）は、京都府地域交響プロジェクト補助金を活用し引き続き協働事業を行う予定です。
- NPO 法人おひさまと風の子サロン（福知山市）は、2020年度も引き続き、京都府内子育て支援事業を実施されている2法人（NPO 法人子育ては親育て実りの森劇場・NPO 法人グローアップ）と一緒に京都府こどもつながり応援隊事業補助金を活用し、「京都府子育て認証団体の再資源化事業」を実施し、地域に根差した活動を行う予定です。

★京都市西京区

協働団体：西京アレルギーっ子の会

『特定原材料 7 品目不使用 親子 de クッキング』

8/2 (金) 10:30~13:00

参加 親子 27 名 託児 3 名

講師：伴 亜紀先生 (栄養士・㈱Graine 代表)

食物アレルギーの有無に関わらず楽しめる親子参加の料理教室の準備・運営をサポートしました。また、当日の講師アシスタントとして、事業実施のサポートもしました。

食物アレルギーの有無に関わらず、参加者親子が一緒に作って食べることを楽しみ、交流する姿が印象的でした。



★亀岡市

協働団体：かめむすび

NPO法人亀岡子育てネットワーク (ゆりかご広場)

●ママ講座一緒にお話ししましょう

4/22 (火)、6/24 (月)、8/26 (月)、10/28 (月)、
12/23 (月)、2/17 (月) 10:00~12:00

参加 延 74 名

亀岡市在住の会員 2 人が中心となり交流会形式で食物アレルギーに対する質問や不安に応えたり、参加者同士の交流を図りました。当法人の食物アレルギー専門相談員 (社会福祉士) が、2 人の様子を見守りました。

6 月には、「かめむすび」という団体名も決まり、亀岡市での食物アレルギーの支援・交流拠点として定着したようです。



●食物アレルギーの学び舎・亀岡

協働団体：かめむすび

12/1 (日) 10:00~12:00 参加 28 名

講師：上原 久輝先生 (日本アレルギー学会専門医)

かめむすびが、初め実施した研修会のサポートをしました。

講座の後の交流会では、当法人の食物アレルギー専門相談員 (社会福祉士) も同席し、参加者の質問などの調整などをさせていただきました。



かめむすび(亀岡)

●当法人の出張学び舎事業として、2017 年度の準備段階よりサポートを行ってきた亀岡市での食物アレルギーの取り組みは、2020 年度からは、かめむすびとして、いよいよ自立した活動へと出発されます。



★食物アレルギーの取り組み事例の報告会

2/2 (日) 13:30~16:00

会場：京都市国際交流会館 第1会議室

【参加団体】(順不同)

NPO 法人おひさまと風の子サロン (福知山市)

ばーばの手 (京田辺市)

かめむすび (亀岡市)

NPO 法人亀岡子育てネットワーク (亀岡市)

西京アレルギーっ子の会 (京都市西京区)

食物アレルギー児の暮らしを考える会 長岡京 (長岡京市)

認定 NPO 法人 FaSoLabo 京都 (京都市)

7 団体と協働で行った食物アレルギーの取り組みの総括として、1年間を振り返り、各団体からの報告、質疑応答、意見交換などを行いました。初対面の団体同士も、同じ『食物アレルギー』をテーマに活動してきたため、意見交換が活発に行われ、同じような課題、悩みを持っていることが分かりました。今後も各団体が横のつながりを持ちながら、それぞれの地域に合った活動をしていけるように、サポートしていきたいと思ひます。



3 支援者支援

出張アレルギーの学び舎

➔アレルギー大学

食物アレルギーを体系的に学ぶ

アレルギー大学は、2006年に愛知県の認定NPO法人アレルギー支援ネットワークが、食物アレルギーの支援者を育成することを目的に始めた事業です。2013年度に京都での開催を誘致し、事務局を務めてきました。

2019年度は、医学、食品学、食育、食品表示などの多様な観点からアレルギーについての概略を理解できる基礎講座のみを行いました。

研究会事業でのソーシャルワーカーの育成へ方針変更のため、2019年度で運営事務局を終了しました。

科目／講師(敬称略)	受講者数	内容
アレルギーの基礎 上原 久輝 田辺中央病院 小児科医員 京都府立医科大学 附属病院 小児科アレルギー外来担当医 日本アレルギー学会専門医	22	アレルギーの原因食品、免疫・アレルギーの仕組み、症状、検査法、治療法等 アレルギーはどのようなものなのかを整理し、理解が出来る講座。アレルギーを知る上で大切な基礎を学ぶ。
アレルゲンの基本 佐々木 梓沙 京都府立大学大学院 生命環境学部食保健学科	22	食品学から食物アレルギーに注目し、体の中の免疫の働きについて触れつつ、アレルゲン物質がどのように消化し吸収されていくのかを学ぶ。
食育とアレルギー 伴 亜紀 食と農のコンシェルジュ Graine 代表	20	食育基本法に基づき、食育とは何かについて学習を深め、食の楽しさ、食の知識等 食育で育てていきたい力について学ぶ講座。「なかよし給食」に触れながらも、栄養価の観点に立ち返る必要性も学ぶ。
加工食品の表示の仕組みとアレルゲン表示 山田 将之 京都府 健康福祉部 生活衛生課 食品衛生担当	20	食品表示法・義務表示事項と概要・アレルギー表示について学び、パッケージの食品表示の見方について詳しく学ぶ。





組織基盤強化合宿

9/21 (土) 22 (日)

『共に学び考える組織』の更なる磨き上げのため、アルバイト・ボランティア・理事・監事等、全スタッフが参加し、当法人初めての2日間にわたる組織基盤強化合宿を行いました。

主な目的は

- ①業務整理・改善
- ②中長期計画の再検討
- ③政策提言など、社会課題解決のスキル向上

です。財政状況の共有や、数値目標など曖昧なままになっていた部分についても、スタッフ間の意識の共有、統一ができました。

また、理事・監事との意見交換や、政策提言については杉岡秀紀先生（福知山公立大学地域経営学部准教授）を講師に迎え、新たな知識の獲得など、刺激の多い2日間となり、中長期計画にも反映されています（P30～33）。

組織基盤強化研修

11/22 (土)、1/17 (土)

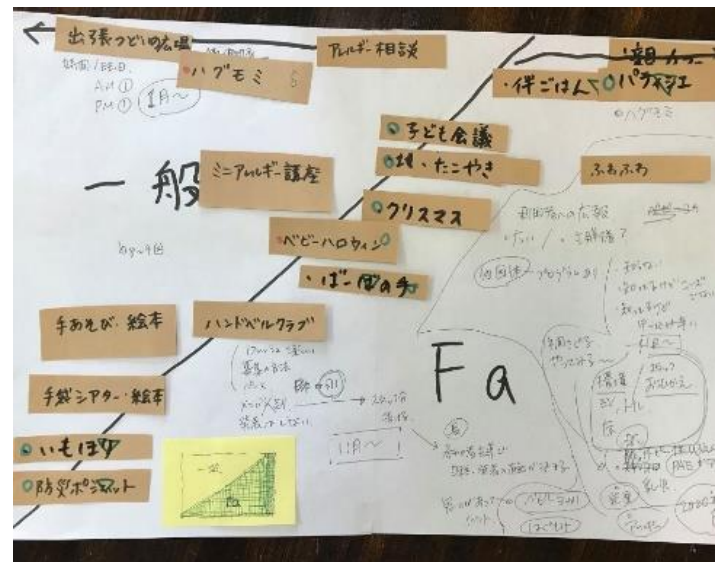
NPO 組織基盤強化コンサルタントの河合将生先生に「NPOとは？ 寄付活動の目的や支援者を増やすためには？」と題して研修を行っていただきました。

私たちの活動をもっとたくさんの人に知っていただき、一緒に活動したい・寄付したいと思ってもらうためにできることは何か話し合いました。他団体における寄付活動の様子もご紹介いただき、今後の活動に活かしていきたいと考えています。特に学生層へのアプローチを模索中で、引き続き研修を行う予定です。

▼組織基盤強化合宿での主な議題一覧

進行： 河合 将生先生 (office musubime)

9/21 (土)	9/22 (日)
合宿の目的、財政状況の共有	政策提言について (福知山公立大学 地域経営学部 准教授 杉岡 秀紀先生)
サポートデスク	食物アレルギー相談援助研究会
つどいの広場	アレルギー大学
経理、広報関係	事務所の環境整備
ニューズレター	スタッフの日々の業務
振り返り	振り返り



FaSoLabo 京都 の 活動理念

事業・活動

食物アレルギーという言葉は、今では知らない人も少なくなりました。

しかしながら、食物アレルギーについての正しい知識や社会的背景については、十分周知されているとはいえません。生活面や精神面への支援の体制は、現在いずれの社会制度の中にも、もりこまれておらず、社会的排除の状況にあります。食物アレルギーの子どもを抱えた家族には、その家族にしか解らない悩み・苦しみがあるのです。そこで私たちは、広く社会に食物アレルギーのこと、食物アレルギーの子どもや家族の生活や思いを知ってもらうことで、当事者の生活の質の向上を図れることを目指して事業・活動を行っています。

1. 食物アレルギーの子どもとその家族の QOL（生活の質）の向上
2. 食物アレルギー そしてその子どもや保護者の生活や思いの周知

FaSoLabo 京都 へ

「Fa」 は food allergy（食物アレルギー）

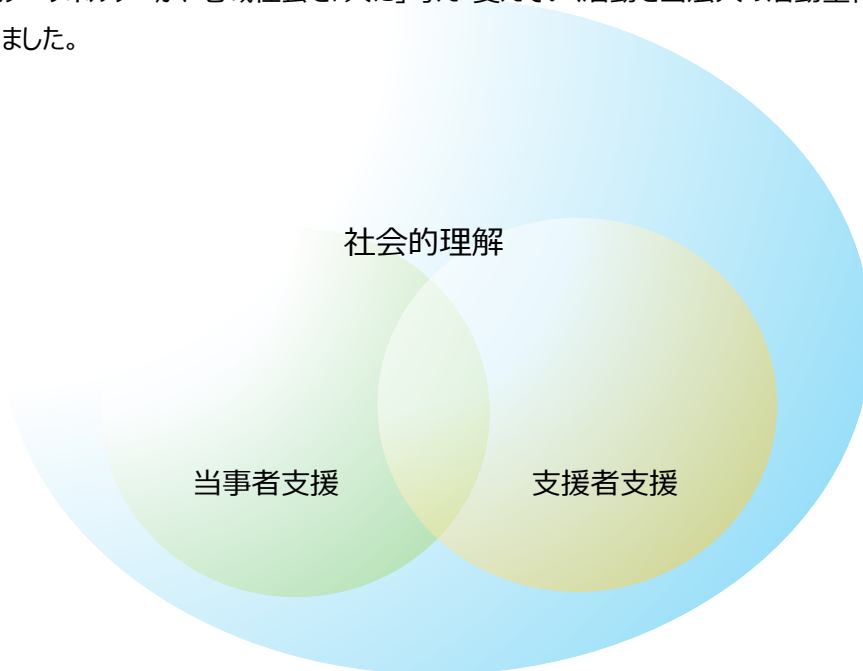
「So」 は social work（ソーシャルワーク）・sower（種をまく人）

「Labo」 は Laboratory（研究所）

新法人名称には、食物アレルギー支援の将来へのたくさんの思いや願いが込められています。

「共に」考え・変えていく活動

食物アレルギーの子どもや家族、専門医・エドゥケーター等医療関係者、社会福祉士等ソーシャルワークの専門家、子育て支援者など多様なステークホルダーが、地域社会を「共に」考え・変えていく活動を当法人の活動主体であることを中長期計画として明確化しました。



私たちは、活動理念に基づきミッション達成のために、社会的理解・当事者支援・支援者支援の3つの柱で事業・活動を実施しています。それぞれの事業は、個々に実施するのではなく、相互に関わりあいながら進めています。

【理事会】

理事会は、ソーシャルワークの専門家・アレルギー専門医・保育士・税理士・食物アレルギーの子どもの保護者など多様な分野の者で組織されています。当法人の理念に基づいて、法人の活動計画や事業予算を策定します。

理事は、専門分野に合わせて法人の個々の事業への管理監督の役割も果たし、監事は、活動・運営を精査いただいています。

また 2016 年度からは、認定 NPO 法人となったことから、京都市・京都府の規定により監査役に大学で政策等を教えられている准教授に審査をお願いしています。

理事長 空閑浩人

監事 板橋利幸

副理事長 青山三智子 上原久輝

認定 NPO 監査 杉岡秀紀

理事 鶴川真悟 小谷智恵 元木啓雄 吉永裕通

【事務局】

事務局長

○職員 小谷智恵 三好英 栗絵美

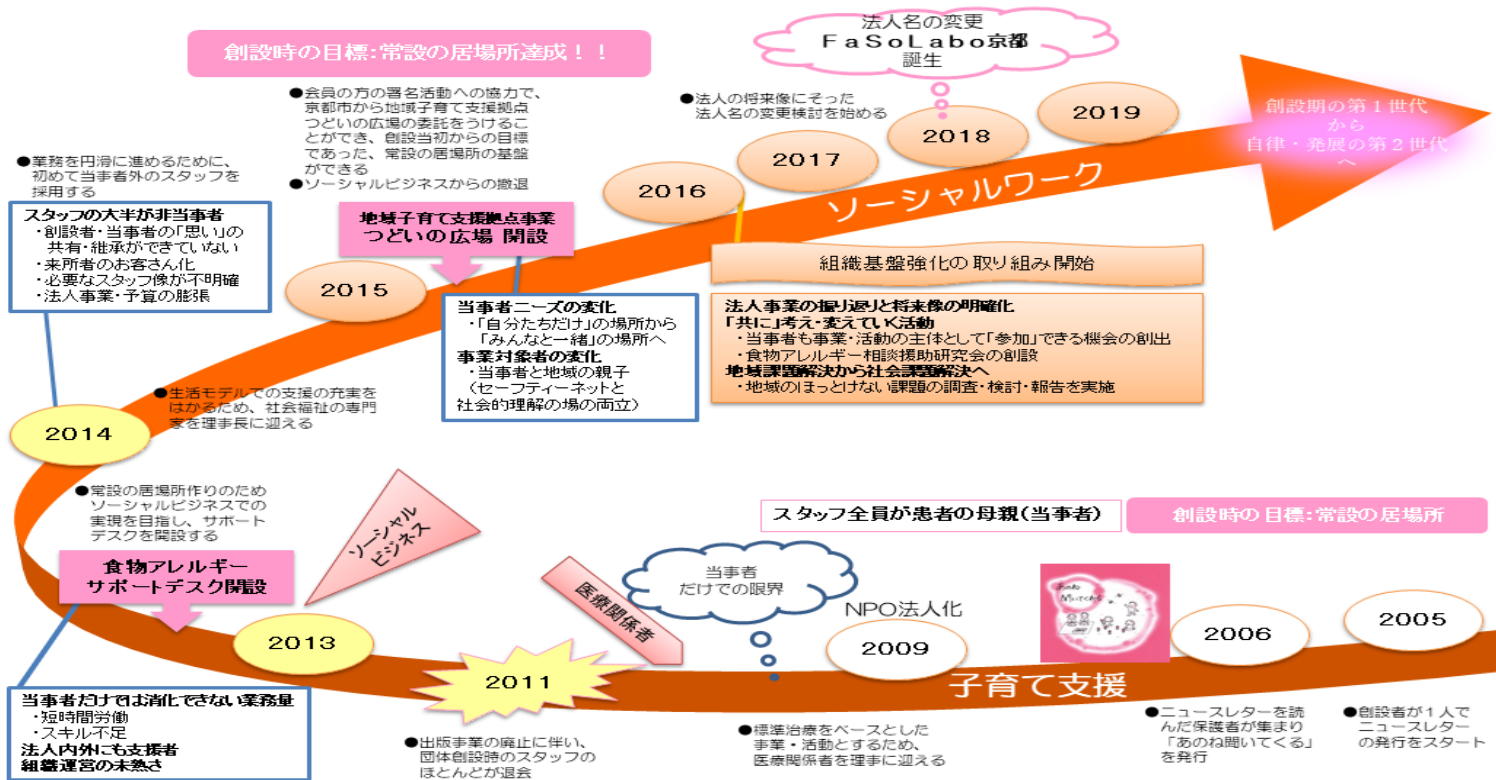
○アルバイト 伊吹睦子 鷺裕一 鋤崎理子 (小谷祥太 小谷祐太 川口紗英子) ()内は新規事業・イベント時の臨時

○ボランティア 今川麻紀 大槻真理 池田香久子 奥山万里加 十亀協子 鷹影未歩子 中澤香奈 中澤弘美 桃井あずみ

(京都華頂大学 学生ボランティア) 石井里依 井上円花 東川愛

※この他にも、年間を通してたくさんの方にボランティアとして当法人の事業を支えていただきました。ありがとうございます。

法人年表 ～これまでとこれからと～



2005 年に「一人じゃないよ」を伝えるために、自分自身の経験や思いを綴ったニュースレターを作り、京都市内の保健所に置いてもらうことから始めた活動。すでに二十歳を過ぎたアレルギーっ子だった長男は、当時小学 1 年生でした。保健所に向かう車には、長男と 3 つ年下の次男も一緒だったこともありました。振り返ると、「一人じゃないよ」と伝えたいと思って始めた活動でしたが、「一人じゃない」と勇気をもらっていたのは、むしろ私だったと思います。

この 15 年間で出会った人たちは数えきれないほどになり、たくさんの方に応援いただいたおかげで、ずっと望んでいた「常設の居場所」も実現しました。食物アレルギーのこと・生活のことを知りたい、居場所を作りたい、アレルギーっ子の母として、団体として「創成期」の第一世代の私たちの思いは叶えることができました。

そして、15 年という時間は、同時に、食物アレルギーを取り巻く環境も大きく変化し、未来を築いていくのはこれからの若い世代であることを感じています。団体としても「発展と自律」の次世代へと、バトンをつなぐ時期になりました。

『食物アレルギーのノーマライゼーション』 私たちの思いは、次世代の思いへ。どんな風に叶えられていくのか、とても楽しみです。

団体創設者 小谷智恵

【事務局スタッフ】

事務局は、常勤職員・非常勤職員・アルバイト・ボランティアが様々な立場で事業に携わっています。子育て支援の視点で食物アレルギーの支援を実施している法人だからこそ、スタッフ個人の「子育て」「家族」がベースであることを大切に、それぞれの主担当事業の業務だけでなく、全員が全員の業務を補完し合えるように努めています。

事務局は新体制へ。今後は3人が中心となって事務局を運営します。



栗絵美

サポートデスクがほっとできる居場所になるように心がけています。つどいの広場で担当している手袋シアターは作り手、演技手を来所者と共に楽しんでいます。事務局は新体制となりますが、スタッフ一同、力を合わせて頑張ります。



伊吹睦子

来所される保護者の方と子どもたちとの出会いに感謝し、安心できる居場所となれるよう、お手伝いさせていただきます！食物アレルギーについては当事者以外の視点から、皆さんと一緒に考えていきたいです。



今川麻紀

私自身も、まだまだ食物アレルギー児の子育て中です。子育てで悩んだとき、辛くなったとき、FaSoLabo 京都がほっと一息つけるような場所でありたいと思っています。食物アレルギーの有無にかかわらず、共に学べて、皆が集えるような企画をしていきたいです。

○学生アルバイト



鷺裕一

食物アレルギーの有無に関わらず、みんなで楽しめる場の提供を目指しています。食物アレルギーの当事者かつ支援者として自分自身の経験を伝え、少しでも皆様の役に立つことができると嬉しいです。



鋤崎理子

食物アレルギー当事者として同じ悩みを持つ方々に寄り添い、力になりたいと考えています。食物アレルギーがある方もない方も一緒に楽しみ、安心できるような居場所作りをしていきたいです。

○サポートスタッフ（事務局全体のサポートを行います）



小谷智恵

社会福祉士
セーフティーネットと夢、子どもと周りの大人、いろんな思いの場になるように。
そして、社会福祉士として法的根拠に沿った支援体制や地域資源の再開発、政策提言など、食物アレルギーに優しい社会になるように発信をしていきます。



三好英

食物アレルギーの有無にかかわらず、どの子ども健やかに育つことを願って、食物アレルギーの当事者と地域の親子のつなぎ役としてお役に立ちたいと思っています。
また FaSoLabo 京都がさらに居心地の良い居場所になるよう、がんばっているスタッフを支えていきたいと思っています。

2020年度も食物アレルギーの子どもと保護者のQOL（生活の質）の向上について共に考え、変えていく応援団になって下さる全ての皆様に関わっていただきたいと思います。よろしく願い致します。

中長期計画

私たちは、常に食物アレルギーの子どもと家族の支援について、子どもが真ん中の視点にたち、支援のありかたを提案（種まき）する専門家でありたいと思っています。

目標：地域社会を共に考え、変えていく行動を行う

方針 子どもが真ん中	事業	結果	目標（数値）
社会的理解	食物アレルギー 相談援助研究会	教える人⇒学ぶ人ではなく、“共に学び合う”場所への転換 子育て支援・生活モデルの視点で支援のあり方を社会全体で考える場ができる 食物アレルギーの子どもの日常生活について知ってもらう 企業や地域に当事者の声が届く	安定した研究会の運営のために、会員制の導入にむけた子育て支援者を中心として裾野を広げる。（公開講座の定期開催 1回以上/年） 結果を決めず、地域や相手のニーズに寄り添う 自由に研究課題が挙げられる分科会がたくさんできる 困りごと・声が蓄積され、支援ツールができていく 支援者としてもっと学びたい人への対応 小児臨床アレルギー学会・社会福祉士学会等で1回/3年程度研究発表できる
	調査 政策提言		都道府県アレルギー疾患医療拠点病院・協議会の早期設置について政策提言する（2019年8月実施） ⇒京都府総合計画案（2020年）の追加案件となる 福祉分野（子育て支援）からのアプローチを行う 京都府の実施する子育て支援員研修で研修が実施される 当事者の声を客観的指標にするための調査を、1回/年程度実施する 食物アレルギーに関する法律、政策提言の手法の研修を毎月実施する
	講師・講演	生活モデル・子育て支援の視点での学びの場になっている	対象者・課題ごとに対応した講師・講演を10回以上/年実施する
	つどいの広場	アレルギーの有無にかかわらず集える場所になっている イベントが、食物アレルギーに配慮された形で実施される 運営する当法人の背景・目的を知ってもらう 研究会事業と連携し、全国のモデル広場となっている	イベントの目的・対象・内容を明確にし実施する ベビュガセラピー 8回/年 ☆ はぐもみ 1回/年 ☆ ☆終了後20分程度の交流タイムを設け、食物アレルギーについて知ってもらう場になっている 手袋シアター 1回/月 手遊び・絵本読み聞かせ 2回程度/週 ミニアレルギー講座 2回/年 (はじめてセットを初利用者全員に配布する（年間100組以上）)
	アウトリーチ		オープンキャンパスを年1回開催する 企業・団体・個人とつながる 食物アレルギーの子どもの生活を知ってもらえる 異業種との協働事業の実施を年1回程度開催する 他分野からの参加者が食物アレルギーを知る機会を創出する
	ファンドレイジング	法人の事業・活動のアウトリーチの場になっている	イェローシートキャンペーン（AEON）・H2O サンタ（エイチ・ツー・オーリテイリング）の寄付活動に参加する（2回以上/年） 企業・団体・個人とつながる 食物アレルギーの子どもの生活を知ってもらえる 楽しく寄付との関わりがもてる仕組みを創る
	SNSの発信	不特定多数の人とつながる場になっている	必要な人に必要な形で必要な情報が届く 身近なことでの気づきの機会になる ホームページ 法人概要・財務状況等は、1回/年更新する 年間活動は、1回以上/年更新する 月次予定は、1回/月更新する Facebook 支援者も活動を知ることができるように、1回以上/週、イベント告知・報告などを行う LINE 月次予定は、毎月前月中旬までに発信する 会員・一般LINEの管理を行う 【会員】 フレンズ会員全員の登録を目指す・先行告知を行う 【一般】 会員以外の登録者を増やす（100名以上） Instagram・Twitter 匿名性の高いSNSは活用しない。顔の見える支援を行う

成果	影響
<p>生活面・精神面を支援できる人材の学びの仕組みができる 調査・研究した事象を政策提言へと発展させられる</p> <p>相談事例集を発行する</p> <p>京都社会福祉士会と連携し、子どもの取り組み案件の1つになる 学生や福祉関係者を巻き込む</p> <p>子育て支援者への垣根を下げる 子ども包括支援センターのような場所が地域社会にできる</p> <p>食物アレルギーの相談援助ができる人材育成の仕組みができる</p> <p>保護者・子ども本人、医療、福祉、教育等、それぞれの場の食物アレルギー支援の過不足を客観的に 評価し見える化する 当事者) 自分たちの声が届いた実感を持ってもらえる 支援者) 自分たちができること、すべきこと、しないといけないことに気付いてもらえる</p> <p>食物アレルギーの相談支援事業を行政（協議会）が行っている 幼・保・学校、公・私に関わらず、子どもの安全を担保できる受け入れ側の研修をする仕組みができる 保護者一人ひとりが個別に交渉するのではなく、相互に分かりやすいシンプルな仕組みができる</p> <p>職員全員が調査・政策提言・食物アレルギーを取り巻く環境の周知ができるようになっている</p>	<p>食物アレルギーソーシャルワークの仕組みができる 食物アレルギーソーシャルワーカーが増える （例）医療ソーシャルワーカーがサポートする疾病の1つとなっている</p> <p>食物アレルギーの子どもと家族の生活の質の向上を社会全体で考えられる</p> <p>教育・社会生活の場でのノーマライゼーションが実現される</p> <p>医療・福祉・教育・防災が連携できている</p> <p>一地域での取り組みが、広域から全国へ広がる</p>
<p>食物アレルギーを身近に感じる</p> <p>社会的接点</p> <p>理解者・応援者が増え、第三者が広く食物アレルギーを伝える役割を担う</p> <p>食物アレルギーを自分事として捉えてくれる</p>	<p>つどいの広場全国協議会において支援者研修が実施される 地域の差がなくなるための、全国で統一のガイドラインができる 全国のつどいの広場がアレルギーに配慮された運営となる</p> <p>利用者支援事業（地域子育て支援拠点事業）の対応が食物アレルギーについても実施される</p> <p>当事者の主体的活動の場となる</p> <p>食物アレルギーの子どもと家族の生活の質の向上を社会全体で共に考えられる社会的寛容が進む</p> <p>食物アレルギーへの関心を示す人が増える</p>

方針 子どもが真ん中	事業	結果	目標（数値）
当事者支援	ニュースレター	子育て支援の場にニュースレターが置かれている FaSoLabo 京都との保護者の接点（入口のツール）になっている	4回/年発行する 2020年度（移行期） 4～6月号、7～9月号、10～12月号、1～3月号 2021年度以降は季刊発行 5～7月号、8～10月号、11～1月号、2～4月号
	サポートデスク (居場所作り)	<p>食物アレルギーの生活面・精神面の相談ができる場所が提供できる</p> <p>食物アレルギーの子ども同士・保護者同士がつながれる場所になっている</p> <p>アレルギーフリーの地域行事・社会体験などに参加できる場所である</p> <p>つどいの広場の人もサポートデスクのイベントに参加している（地域の人への垣根を低くする）</p>	<p>イベントの目的・対象・内容を明確にし実施する</p> <p>キッズチャレンジ</p> <p>パティシエくらぶ 1回/年 ☆</p> <p>防災ポシェット 1回/年</p> <p>夏祭り（たご焼き屋さん） 1回/年</p> <p>子ども会議 3回/年</p> <p>オープンキャンパスお店屋さん 1回/年</p> <p>ばーばのおやつ 1回/年</p> <p>お芋ほり 1回/年</p> <p>クリスマス会 1回/年</p> <p>BAN ばん パーンと伴ごはん 3回/年</p> <p>親カフェ 6回以上/年 ♡</p> <p>ふわふわ（貸し切りの日） 1回/年 ◎</p> <p>☆当事者優先 ♡当事者対象。伴ごはん、細川さんおしゃべり会、サルベージパーティ、ティーンズミーティング等と組み合わせる ◎テーマ（発達・アトピー・性皮膚炎・食物アレルギー・はぐもみ・ベビーヨガセラピー）を決めて実施</p>
	災害支援	<p>出張つどいの広場 11月14日開催（AMSJ、FMSJ） 趣向・手紙・筆・読書・絵本</p> <p>はぐもみ（1） ベビーヨガ（8）</p> <p>ミニアレルギー講座</p> <p>ぱーぱの手</p> <p>伴ごはん</p> <p>子ども会議</p> <p>夏祭り（たご焼き・地域盆）</p> <p>クリスマス</p> <p>ベビーハロウィン</p> <p>お芋ほり</p> <p>防災ポシェット</p> <p>ハンドベルくらぶ ※トは太鼓の人の私生活や、児童館のイベント、11月14日開催 メンタルケア・読書発表、筆習字や絵巻、巻物を完成 参加者自スタンプが貼れる</p> <p>アレルギー相談</p> <p>パティシエくらぶ</p> <p>ふわふわ 11月14日開催 趣向・読書・筆習字・読書発表・読書発表・読書発表・読書発表 読書・筆習字・読書発表・読書発表・読書発表・読書発表 読書・筆習字・読書発表・読書発表・読書発表・読書発表</p> <p>2019年度4回 伴ごはん 筆習字・読書発表・読書発表・読書発表・読書発表 読書・筆習字・読書発表・読書発表・読書発表・読書発表</p> <p>FA</p>	<p>会員更新時に、防災グッズ等を渡す 1回/年</p> <p>サポートデスク事業（キッズチャレンジ）で地域住民（子ども）と共に防災ポシェットを作る 1回/年</p> <p>京都 DWAT の研修・訓練に参加する（社会福祉士有資格者） 2回以上/年</p>
支援者支援	出張アレルギーの 学び舎	<p>子どもに関わる人に講座の提供ができる</p> <p>当事者と支援者が相互の立場や思いを知り合える場所の提供ができる</p>	<p>支援拠点の多様なニーズに応える講師を確保できている</p> <p>日本アレルギー学会専門医 10名以上</p> <p>小児アレルギーエドゥケーター 2名</p> <p>栄養士・管理栄養士 2名以上</p> <p>社会福祉士 5名以上</p>
	アレルギー大学	2019年度で終了 研究会事業でのソーシャルワーカーの育成に方針変更	—
組織運営	組織基盤強化	<p>運営に関するスキルを獲得する</p> <p>NPO 法人について知る</p> <p>ありたい姿、目指す姿、私にとってのFaSoLabo 京都を考える</p> <p>食物アレルギーについての知識・理解を学ぶ場がある</p> <p>ソーシャルワークスキルを学ぶ場がある</p> <p>社会のしくみ（自治体等の公的制度など）を知る</p>	<p>定例ミーティングで困り事・課題が検討できる 1回以上/月</p> <p>全員が事業全体を見渡せ、業務の相互補完ができています 残業0</p>

成果	影響
<p>“独りじゃない”ことが、当事者に伝わる ⇒ イベント等への参加の機会につながる</p> <p>食物アレルギーのピアサポートの入口として問い合わせがくる 当事者が知りたい身近なことを知ることができる</p>	<p>当事者—社会 双方向の流れができる</p> <p>当事者への共感が伝わる</p>
<p>親支援・子ども支援としてセーフティーネットの役割が果たせる</p> <p>保護者にとって息抜きできる居場所になっている</p> <p>子どもにとって夢や希望が描ける場所になっている</p> <p>親子にとって安心・安全に過ごせる場所になっている</p>	<p>地域社会で、食物アレルギーに配慮された場所作りやイベント運営がされている</p> <p>フレンズ会員がサポーター会員となり次世代を支えている 地域のサポーター会員が増え、支える寄付が集まる</p>
<p>各家庭で、被災時の準備（自助）ができている</p> <p>地域資源（講座主催団体・参加個人）の再資源化や、自分たちが居住する地域の防災対策を知り、被災時に備えられる（互助・共助）</p> <p>京都 DWAT の対象案件に食物アレルギーが組み込まれ、対応ができている（公助）</p>	<p>地域防災対策への波及効果</p> <p>京都府域の他団体（福祉関係）とのネットワーク構築</p> <p>京都府との連携構築</p>
<p>京都府内各所に支援拠点（団体）ができている 10 箇所以上</p> <p>支援拠点（団体）同士のネットワークが構築でき、相互に助け合えることができる 支援拠点（団体）の相談事例、困りごとを研究会事業で検討ができている 支援拠点（団体）の要望に沿った中間支援ができている</p>	<p>FaSoLabo 京都が特別な場所ではなく、あちこちに居場所ができる</p>
<p>_____</p>	<p>_____</p>
<p>事業運営のための課題・目標を共有するための研修が行える 職員が理事会に出席し、運営について学ぶ機会にする</p> <p>出張アレルギーの学び舎等に職員が参加し、食物アレルギーの知識を学ぶ 相談援助研究会に職員が参加し、ソーシャルワークスキルを学ぶ</p> <p>外部研修へ参加できる体制ができる</p>	<p>皆が柱の組織 ONE TEAM</p>

財務諸表

活動計算書

【経常収益】			
受取会費		462,000	462,000
受取寄付金	受取寄付金	336,677	
	ボランティア受入評価益	132,775	
	商品等受入評価益	127,898	597,350
受取補助金等	受取助成金	1,074,000	1,074,000
事業収益	業務委託料	6,366,000	
	研修会受講料・テキスト代	266,500	
	講師料	161,020	
	利用者負担金収益・保育利用料	134,024	6,927,544
その他収益		18,869	18,869
経常収益計			9,079,763
【経営費用】			
事業費	人件費	3,266,313	
	その他経費	5,706,147	
	ボランティア等評価費用	132,775	
	商品等評価費用	127,898	9,233,133
管理費	人件費	2,179,093	
	その他経費	151,014	2,330,107
経常費用計			11,563,240
当期正味財産増減額			△ 2,483,477
前期繰越正味財産額			1,700,948
次期繰越正味財産額			△ 782,529

貸借対照表

【資産の部】		【負債の部】		
流動資産	未収金	771,893	未払金	2,020,035
	現金・預金	349,139	前受金	400,000
	前払費用	165,000	預り金	17,726
	棚卸資産	56,900		
	仮払金	12,300		
	流動資産合計	1,355,232		
固定資産	差入補償金	300,000		
	固定資産合計	300,000		
資産合計		1,655,232	負債合計	2,437,761
【正味財産】			△ 782,529	

FaSoLabo 京都の事業・活動は、「食物アレルギーの子どもと保護者のQOL（生活の質）の向上」を目的に行っています。これには「当事者支援」と「支援者支援」「社会的理解」3つの支援が大切だと考えています。安心して、継続した支援を行うには、皆様からの資金面でのサポートが大きな力となります。

「フレンズ」は、

「利用者」と運営する「スタッフ」という一方的な関係ではなく、「一緒に活動していく仲間でありたい」という思いを込めて命名しました。実は、他にも「ファミリー」などの名称案も出しましたが、内輪で閉じこもることなく、アレルギーの有無に関係なく仲間の輪を広げていけるようにという思いも込められています。



種別	名称	会費	特徴	
正会員		10,000円	<ul style="list-style-type: none"> ●ニュースレターが年4回郵送されます。 ●会員・フレンズ限定LINEに登録でき、いち早くイベントの案内・申込みが可能です。会員限定イベントにも参加できます。 ●緊急時安否確認システムに登録できます。 ●イベントや講座に無料または割引料金を参加できます。 ●当法人の総会での発言権・議決権を有し、当法人の事業・活動を実施・運営することができます。 	
フレンズ	個人フレンズ	3,000円	<ul style="list-style-type: none"> ●ニュースレターが年4回郵送されます。 ●会員・フレンズ限定LINEに登録でき、いち早くイベントの案内・申込みが可能です。会員限定イベントにも参加できます。 ●緊急時安否確認システムに登録できます。 ●イベントや講座に、無料または割引料金を参加できます。 	
	団体フレンズ	5,000円 ※イベント参加は1回につき2名まで。		
サポーター	個人サポーター	個人：3,000円～ (以降1,000円単位で任意)	<ul style="list-style-type: none"> ●ニュースレターが年4回郵送されます。 ●寄付金として税制優遇(※)を受けられます。 ○イベントや講座の参加に対する割引はありません。 食物アレルギーの子どもと保護者を支援したい！という方向け。 	
		団体：5,000円～ (以降1,000円単位で任意)		
	企業サポーター	企業：30,000円～ (以降1,000円単位で任意)		<ul style="list-style-type: none"> ●ニュースレターが年4回郵送されます。 ●サポートデスクを商品のモニタリングや広報などに利用できます。 ●ニュースレターへ無料で広告を掲載できます。 ●FaSoLabo 京都のホームページにバナーやリンクを掲載できます。 ●寄付金として税制優遇(※)を受けられます。
		個人事業主：10,000円～ (以降1,000円単位で任意)		

※FaSoLabo 京都は2017年1月より認定NPO法人となりました。認定NPO法人制度は、NPO法人への寄附を促すことによりNPO法人の活動を支援することを目的としており、下のような税制上の優遇措置を受けることができます。

地域のためにできること 寄附という応援のかたち 京都市

京都市では、市民活動を市民が支える社会の構築に向けて、寄附を通した市民の社会参加と寄附を財源とするNPO法人の活動を促進しています。

認定(仮認定)NPO法人への寄附者に対する税制上の優遇措置

認定(仮認定)NPO法人とは、NPO法に定める基準に基づき、所得税の寄附金控除等の対象となるNPO法人として所轄庁が認定(仮認定)したNPO法人です。

国税と地方税あわせて、寄附金額の最大50%が税額から控除されます。

所得税額の控除額

→(寄附金額-2,000円)×40%

住民税額の控除額

(京都市と京都府がともに条例で指定している場合)
→(寄附金額-2,000円)×10%

個人が認定(仮認定)NPO法人に1万円寄附した場合の税額控除例 「寄附金控除」を受けるためには、確定申告を行う必要があります。



あなたも「寄附」というかたちでNPO法人の活動を応援してみませんか。



NPO法人にとっての寄附とは？

社会の様々な課題の解決に向けて公益活動を行うNPO法人にとって、財政基盤の安定化を図ることは重要な課題であり、特定の財源に依存しない財政面での自立につながる寄附金は、貴重な財源の一つとなっています。

詳しくは、「京都市自治会・町内会&NPOおうえんポータルサイト」を御覧ください。

京都市 NPO おうえん

検索